

江南市地域福祉の区域の考え方について

1 小地域福祉活動について

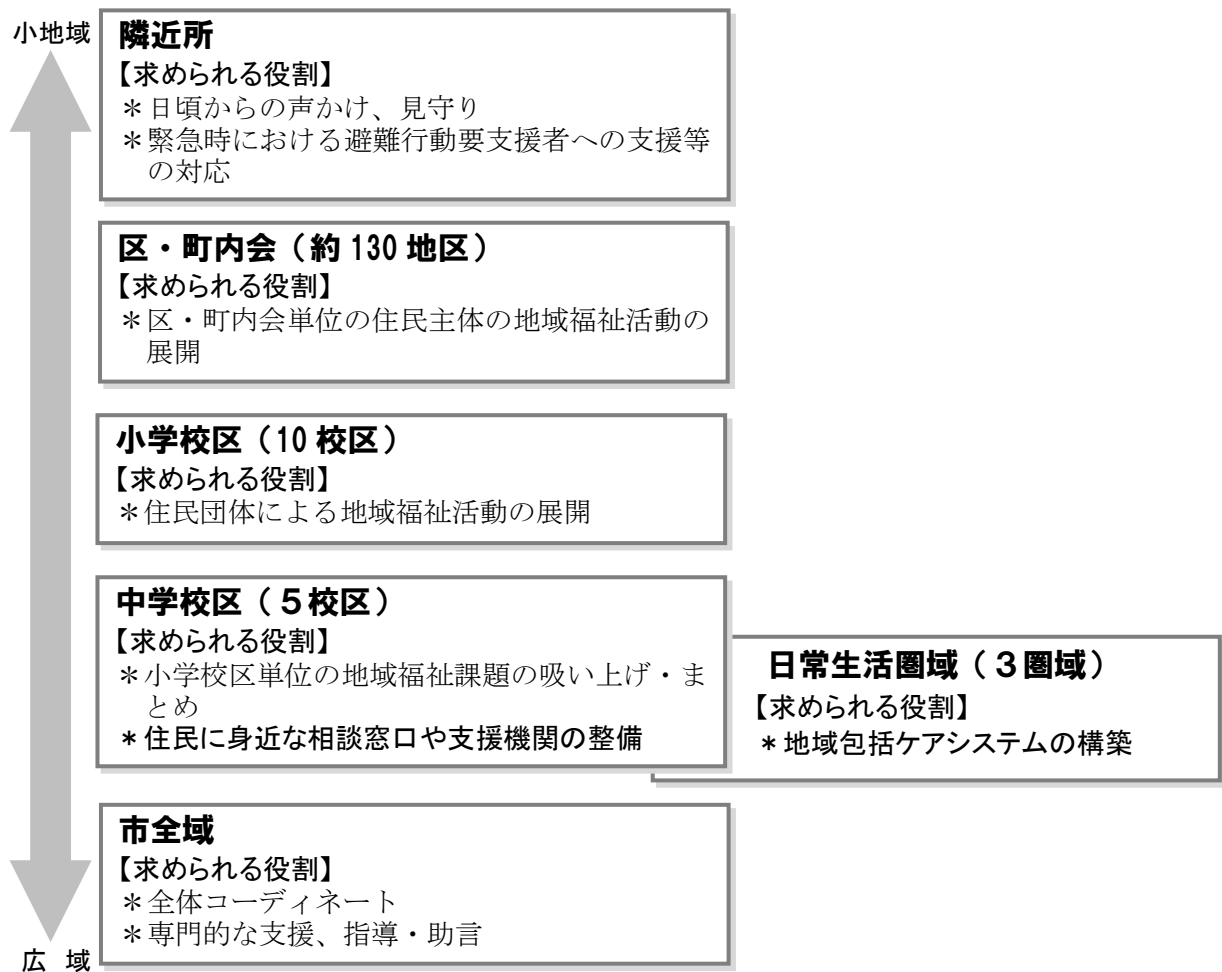
地域福祉推進にあたっては、小地域福祉で組織的な取り組みを行っていくための区域を設定していくことが重要である。

区域設定の考え方の一つの例として、高齢者福祉施策における日常生活圏域については、以下のような考え方で設定するよう考え方が提示されている。

【日常生活圏域設定の考え方】

当該市町村が、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付対象サービスを提供するための施設の整備の状況その他の条件を勘案して日常生活圏域を定めるものとする。

2 江南市における重層的な地域

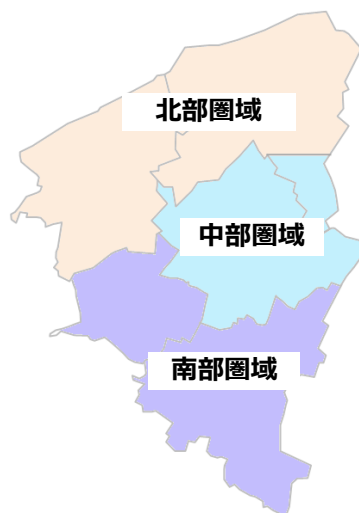


■地図でみる江南市の地域区分(小学校区・中学校区)



【参考】日常生活圏域(3圏域)

北部: 宮田中学校区と北部中学校区の一部
中部: 古知野中学校区と北部中学校区の一部
南部: 布袋中学校区、西部中学校区



3 区域設定にあたっての留意点

設定にあたっては、以下の点に留意する必要がある。

①実際に稼働が可能な区域となっているか

細かすぎる区域設定では、人的・物的資源の不足から稼働に至らない可能性が高い。人員配置や施設の整備などの視点から、現実的に稼働させていくために妥当なラインを見定め、設定する必要がある。より小地域での活動が望ましい場合は、その後、より小地域に下部組織を立ち上げていく方法が考えられる。

②住民実感的にわかりやすい区域であるか

実際に住んでいる人、活動している人の実感からかけ離れた区域設定では、小地域福祉活動を実施していく上での連帯意識が生まれにくい。

③その他

・すでに小地域福祉活動が活性化している地域はあるか

地域範囲を市が設定することで、まとまって動いている地域を分断することにならないよう配慮する必要がある。

・市内に複数圏域が設定されることで、地域組織に混乱が起きないか

高齢者の日常生活圏域、総合計画の地区計画などが動き出している場合、ある程度連動していることが望ましい。

・人口や高齢化率・地域資源に過度な偏りが出ないか

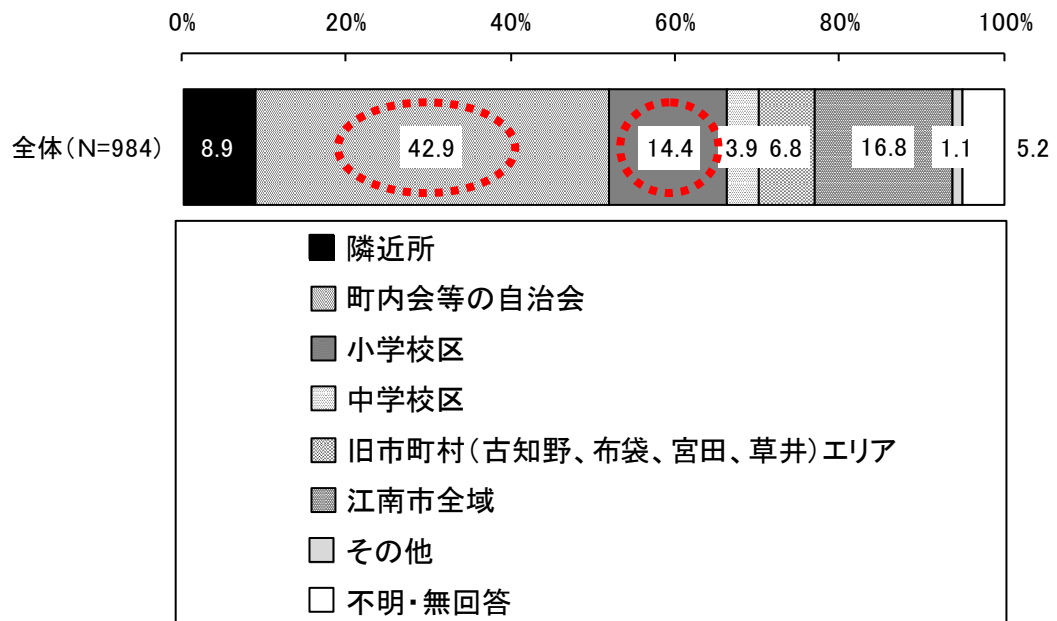
高齢者が多い、子どもが多いなどの人口構成の差、生活環境の差はあってもよいが、高齢化により担い手が過度に不足しているなど今後の推進に支障のある差がでないよう配慮する必要がある。

→江南市では過疎地域や地形的に孤立する地域はなく、人口的にも偏りは少ないため、考慮の必要性は少ない。

4 江南市の小地域の範囲について

○平成 28 年 9 月に実施した市民意識調査の結果を踏まえると、住民実感的には「町内会等の自治会」「小学校区」を身近な範囲と感じている人が多い。また、区・町内会では区長・町内会長のもと 130 超の組織で住民活動を展開している。

■あなたは、『地域』とはどの程度の範囲のことだと思いますか(市民意識調査)



○しかし、区・町内会、小学校区ともに住民活動の範囲としては望ましいものの、130 地区、10 地区という単位で人員配置、拠点整備を計画的に実施していくのは現時点では難しい。

○日常生活圏域は 3 圏域あり、地域包括支援センターが 3 か所設置されている。高齢福祉分野と地域福祉分野はその目的を同じくする部分も多いが、地域福祉の方が網羅する範囲が広い分、よりきめ細かな区域設定が必要である。

○中学校区は、住民実感的には身近な範囲とはいえないが、おおよそ小学校区と連動しているため、小学校区ごとの住民活動をまとめあげることができる。

以上のことを踏まえ、

江南市においては小地域福祉の区域として中学校区を設定するものとする。

ただしこの区域は全市一律的な展開を図るものではなく、区・町内会や小学校区ごとの活動、子ども会、老人クラブなどそれぞれの範囲で行われている既存の住民活動を尊重しながら、それら個別の活動から出てきた課題を吸い上げ、意見をまとめ、今後の方向性を決定していくための範囲として考えるものとする。

